

## 第2回隠岐広域連合広域計画策定委員会 議事内容

1. と き 令和元年11月25日(月)9:00~11:40
2. ところ 隠岐広域連合消防本部(隠岐の島町平)
3. 出席者  
委員 常角敏(島後地区手をつなぐ親の会(代表))、高梨みゆき(仁万の里保護者会(代表))、池田眞理香(隠岐地区老人福祉施設研究協議会 会長)、平木みゆき(西ノ島社会福祉協議会 事務局長)、村田正弘(隠岐の島町消防団 団長)、角橋隼人(隠岐観光協会 事務局長)、上野康(株山陰合同銀行西郷支店 支店長)、川崎康久(隠岐広域連合 副広域連合長)  
事務局 野津信吾(事務局長)、藤野則子(介護保険課長)、中村一(隠岐病院医事係長)、藤田正峯(消防次長)、田中井和幸(消防総務課長)、和田哲也(企画財政係長)

### 4. 委員長あいさつ

前回までのところで、広域計画たたき台の事務局説明は終わっているので、本日は一項目ずつの確認と意見をお願いしたい。

### 5. 議 題

#### (1) 隠岐広域連合広域計画たたき台について【資料8】

##### ① I 序論 (P1~P2)

(常角委員長) P1 『3 計画の圏域』の中で、『連携又は交流の必要がある場合は、圏域外についても計画の対象とする』とあるが、こういった事例を想定しているか。

(事務局) 例えば、松江市の交流施設レインボープラザで、松江市や他団体と一緒に隠岐のPRイベント等を開催する場合や、鳥取港振興会主催ではあるが、今年度も実施した超高速船チャーター運航(鳥取港⇒西郷港)等のイベントもあり、こういったものを広域計画に盛り込むようなことがあればということ想定している。

##### ② II 基本構想 (P3~P5)

※質疑なし

##### ③ III 基本計画

#### 【1】医療提供体制の基本方針に関すること (P5~P12)

(常角委員長) P5 『現状と課題』のうち、『医療従事者不足は依然として深刻な状況』とあるが具体的にどういった状況か、関連して、医師・看護師等の働き方改革に係る取組は一見して矛盾するように思われるが、矛盾しないようにどのような対策をしていくのか教えていただきたい。

(事務局) 常勤医師、代診医師の派遣に係る医師の人事権は、島根県、島根大学、鳥取大学等にあり、年2回は広域連合長をはじめ関係者でご挨拶とお願いに回っている。要望どおりにいかないこともあるが、安定的に医師確

保できるよう取り組んでいる状況。また、精神科医師のように、以前お勤めいただいた方を隠岐病院独自で採用するといったケースもある。働き方改革については、3年半後には医師にも時間的な制約がかかってくるようになる。現状では医師数を増やすだけしかないと思っているが、医師確保が厳しい状況にある中、島内の医師が連携を深めていく必要があると考えている。

(常角委員長) 看護師補助者や厨房スタッフ等の確保について、職場体験受入れやジョブフェア参加の効果はあったか。

(事務局) 職場体験、実習生の受入れ、医学生・医療技術学生への修学資金の貸与等の様々な取組を通じて医療に興味を持ってもらい将来的に広域連合立病院に帰ってきてもらう取組を進めている。修学資金貸与者の広域連合立病院への就職率は40%ほどとなっている。

(常角委員長) 少子化の中で隠岐の子供たちが将来医療に携わるために職場体験の受入れは大事。先日も養護学校の生徒が隠岐病院の厨房へ職場体験をし、このまま厨房スタッフとして働きたいと言っていた。様々な取組をしていただいているが更に取組を強化して医療スタッフの確保に繋げていただきたい。

(上野委員) 看護師は地元出身者が多いか。

(事務局) 島前病院はIターン者(約15名)も多い。隠岐病院はIターン者はほとんどいないが、出産・育児職員の代替として看護師派遣会社3社から10名以上の看護師を派遣してもらっている。

(上野委員) 派遣期間は6か月位か。

(事務局) だいたい1年。長い方では2年以上。

(上野委員) 年齢的には若い看護師が多いか。

(事務局) ある程度経験のある方をお願いしており、中堅どころといった感じの方が多。

(高梨副委員長) 男性の方もいるのか。

(事務局) 2名はいる。

(常角委員長) 高齢者福祉施設、障がい者福祉施設も看護師不足だと思うが、職員の取り合いみたいにはならないのか。

(池田委員) 卒業したての看護師はぜひ病院で働いて腕を磨いてもらって、ふれあい五箇へは病院を退職してから来ていただければいいというスタンス。募集もしないし口コミで来てもらっているという感じなので取り合いということにはなっていないと思う。地域の診療所の医師をかかりつけ医として、症状が軽いものであればかかりつけ医を受診するようにすれば隠岐病院の医師に負担をかけることもない。そういうことから診療所の取組は非常に重要だと思う。

(事務局) 現在五箇診療所の医師が不在で隠岐病院の医師が派遣されているが、診療所の看護師さんの感触もよかった。

(池田委員) 隠岐病院の医師の働き方としてはどうか。

(事務局) 医師が補充できない現状では、医師が不在になる時間は、現場では当

然負担が増えることになるが、医師が補充できれば、池田委員がおっしゃったように隠岐病院の外来患者を抑制して診療所で診れる体制は出来るのかなと思う。

(常角委員長) 不採算部門とか何か。

(事務局) 精神科、歯科等で、診療収益よりも診療に係る人件費等の方が大きい部門。診療報酬、人員配置等の関係で利益が出ない。

(角橋委員) 『経営コンサルタント』とあるが、島外の病院専門のコンサルタント会社か。

(事務局) ㈱日本経営(本社は大阪府)と㈱山陰合同銀行に共同でコンサルティング業務に入ってもらい、特に収入増加対策、病棟構成の見直し等についてコンサルティングを実施してもらっている。

(角橋委員) 経営改革計画を策定していく中で、不採算部門をどうしていくかというような議論もなされるのか。

(事務局) 公立病院の難しいところだが、島の唯一の病院であり不採算だからといって診療をやめるわけにはいかない。行政として不採算部門を守るために、島根県、隠岐の島町から負担金をいただいております、今後もそういう整理でいいと思う。

(上野委員) 今年度計画策定して来年度から計画実行していくというふうに聞いている。

(常角委員長) レインボープラザの患者等宿泊ルームの1泊の料金はいくらか。利用は妊産婦がほとんどか。また利用対象は妊産婦のみか。

(事務局) 利用料金は1泊3,000円(税込み)で妊産婦の利用がほとんど。妊産婦及び付添家族のほか、5日以上通院又は入院を必要とする患者、付添家族も利用可能。

(常角委員長) 住民にはどのような方法で周知しているか。

(事務局) 広域連合のホームページに掲載している。

(常角委員長) 若干利用料金が安い気がする。

(事務局) 実際に部屋を見てもらえば分かるが、簡易キッチンや備え付け家電、畳の部屋もありスペースも広く、ビジネスホテルと違いある程度長期滞在ができる環境となっている。

(池田委員) 長期滞在者に対して割引があってもいいような気はする。

(常角委員長) 稼働率はどのくらいか。

(事務局) 稼働率の資料は持っていないが、島前の妊産婦の利用がほとんどであり年間10~14名の利用がある。稼働率が低いので通常ホテル側には1室は必ず確保してもらって、その他空きがあればツインルームとして一般客も利用できる運用としている。

## 【2】介護保険の実施に係る基本方針に関すること (P12~P15)

(常角委員長) 人材の育成・確保の見通しについては。

(事務局) 今年度から人材確保担当職員として介護保険課に1名配置している。また昨年、島根総合福祉専門学校(安来市)と協定を結び、隠岐サテライトオフィスとして同校から月2回程度理事長に来島いただき、人材

確保担当職員と連携しながら事業を進めている。まず今年度は、隠岐でいろいろな研修が開催できるような体制を構築。今月知夫村において主婦をメインに介護入門研修を開催。12月1日には海士町で同研修を開催予定。それと同時に、隠岐で研修に係る講師を養成する研修会を開催。講師の要件を満たすようにするための研修を実施して講師を養成、今年度は島後開催で6名の方が受講希望している。来年は島前開催も考えているし、ここ3年間である程度の講師を養成し、隠岐でいろいろな研修ができる体制を作りかけているところ。あわせて、今年5月に介護保険課において無料職業紹介事業所の届出を労働局に行い、介護等福祉事業所と求人・求職者とのマッチングができるような窓口を現在作っており、今後ポスター・パンフレット等により情報発信していく。島外からも希望者があれば隠岐全体の事業所を紹介し、それと同時に町村窓口にも対応をお願いして、後は広域連合で繋いでいくというような形を考えている。

(常角委員長) 介護従事者の中には外国人もいて言葉の壁もあると思うが、共生学園が日本語教室を企画し日本語習得に取り組んでいる。

(高梨副委員長) 私も行っているが、日本語習得に向けてすごく頑張っている。

(川崎委員) 日本語能力試験で何級を取れば何年滞在できるのか。

(高梨副委員長) フィリピンの方たちは、家族を残して来日しているため短期滞在が多く、日本で働きながら資格取得してゆくゆくはフィリピンに帰って仕事をするというような方が多い。

(常角委員長) 今は何人受講しているか。

(高梨副委員長) 今は1人。

(池田委員) ベトナムの方もいるか。

(高梨副委員長) 静和園にはフィリピンの方だけ。

(平木委員) 西ノ島町にはベトナムの方が1人いて、12月にまた2人来る。非常に良く働く。日本語の聞き取りはできるが喋る方はまだまだ。

(常角委員長) 生活会話は出来るが仕事における専門会話は難しいようだ。

(高梨副委員長) 一旦受け入れてまず日本語の勉強をさせてもらえる研修所が横浜にあり、そこで日本語能力試験 N3 ぐらいまでを習得して来られた方はかなりやり取りができる。

(池田委員) 今更だが介護保険料はいくらか。

(事務局) 基準額が月額6,550円。平成24年から据え置いている。

(池田委員) サービスに係る給付額は減っているか。

(事務局) 団塊の世代の方がまだ介護を必要とする年代になっていないため、高齢化率は上がっているがサービスを利用する年齢層は少ないことと、要支援1、2の方が総合事業に移った関係で給付額は少し減っている。

(池田委員) 国は要介護1、2も見直すと言っているようだが、見直しはどうか。

(事務局) 介護1の方の訪問介護を町村へ移行というようなことは聞いているが次の制度改革で見直されるかどうかは不透明。

(平木委員) いま国からアンケートが来ていて基本的に総合事業に移行すると認知

症で独り暮らしで介護1、2の人はたくさんいて、そこが総合事業に行くことは考えられない。専門職が毎日関わってやっと在宅生活ができているという現実を記入した。予防の人しか新規で上がってこないの採算性から言ったらぜんぜんやっていけない。365日まわさないといけないし人は欲しいけどパートすら募集しても来ないし結局は正職員でまわすが赤字はどんどん膨らんでいく。ケアマネの訪問も町の人口が2,800人を切ってきていて事業そのものを単独で持つこと自体が難しい。町全体で介護保険事業を今後どうしていくのか根本的なところから3法人でどう役割分担していくかを考えているが、この先は厳しい。西ノ島町の話でいくとリハビリスタッフが7名くらいいて充実しているが、圧迫骨折後等で長くリハビリ目的で入院されている方がたくさんいてベットが回らない状況が続いている。リハビリを卒業しなければならぬ方もずっとリハビリを受けていて、出口がないということでリハビリスタッフさんが地域の受け皿として、1グループ3人以上の自主的なグループができれば地域で週1回体操教室を自主的な活動を増やす取組を行っている。リハ側から地域へ出て行ってというところでやりだしたが、なかなか包括支援センターがそれに伴って一緒に動けないので、リハ側も社協とタイアップして出来ないかという話を現在している。

(事務局) リハ職との関わりを国はすごく進めていて、それが西ノ島は最先端でやりつつある。

(平木委員) リハビリスタッフの意識がすごく高くて、雲南市とか研修に行かれてそこのいい所は全部持ち帰って、まねから始めようということで実施している。リハスタッフが地域に持って出るパネル等を全部作って、イスだけは町で購入してもらって、4回はリハスタッフが治療に行き、後は自立的に取り組むことになっている。グループが出来つつあり、社協も一緒に見学に行っている。国は予防にシフトしており、今後どう力を入れていくか考えているところである。

(常角委員長) 『介護保険の実施に係る基本方針に関する事』で何か修正はあるか。

(委員) ない。

### 【3】消防の基本方針に関する事 (P16~P19)

(常角委員長) 次期広域計画期間の目玉は何か。

(事務局) 頻発する大規模災害に対応するための緊急消防援助隊の強化、不特定多数の者が出入りする施設に係る立入検査の充実強化である。

(村田委員) 各家庭における消火器及び火災報知器の普及率は。

(事務局) 島前・島後で約60%の普及率である。

(池田委員) 各自治会の自主防災組織防災計画の策定状況は。五箇地区で言えば郡地区ぐらいしか策定してないのでは。

(事務局) 町村と協議をしながら進めていくことになるが、現在隠岐地域全体で10地区程度は策定済み。

(池田委員) 津波、土砂災害、水害、地震、火災それぞれに避難訓練等対応しなければならず毎年訓練するとなると大変である。

#### 【4】障がい者福祉及び障がい児福祉の基本方針に関すること（P19～P22）

（高梨副委員長）『慢性的な福祉職員不足の状況』について、仁万の里職員募集のチラシが入ったりするがどれくらい効果があるか疑問。土日の利用者に対するサービスがすごく低下していると思う。本当に困っている状況を島民に知ってもらう方法がほかにもあるのではないか。

（事務局）新聞折込チラシ、ジョブフェア等にも参加しているが職員採用には非常に苦慮している。介護職場も同様だが、職員採用に特効薬はなく、賃上げ、職の魅力向上の取組を地道にやっていくしかないと思っている。

（池田委員）設立から40年近く経つと思うが、「仲間たちと共に歩む」とか「地域に根ざした」など元々の基本理念があって、『法律の基本理念に沿って』ということになると何かおかしくなるような気がする。基本理念が揺らいではないか、外部評価もしているのでその部分と、福祉の土台を形作ったのは仁万の里だと思うので、もう一度見直さなければならないと思う。

（常角委員長）職員のモチベーションが下がってきているのではないかと感じる。大きな要素としては広域連合からの派遣職員と博愛職員の給与の差があると思う。

（池田委員）派遣職員は何名か。

（川崎委員）派遣当初は12名いたが来年度は4名。給与格差の点で言えば、経過措置として派遣から10年間は広域連合の水準を保障するがそれ以後は博愛の水準に合わせることで格差は無くなる。確かに、何のためにこの職業に就いたのかというところは薄くなってきていると感じる。痛し痒しのところがあって、職員の数は確保しなければならず、競合が無い中で採用せざるを得ない現実があり、職員みんな同じ方向に進めないということはある。

（常角委員長）職員研修といった部分では我々も協力していきたいと思っている。

（常角委員長）児童部について、『入所施設が都万地区にあるため学校等からの移動に時間がかかる上・・・』云々の問題は非常に難しい問題だと思うが、施設を旧西郷町内に整備する等の見通しはどうか。

（川崎委員）放課後、日中一時がかなり増えているが、例えば旧町内に近い人はみんなの作業所を活用するとか構想を練り直す必要があるかもしれない。話は変わるが、『(1)運営主体』で、前回まであった『民営への移行を検討する』の文言が消えているのは、民営にした時に施設の維持が重荷となっていく。現状の収支の中で施設の維持管理までを法人に委託するのは現時点では無理であろうと、行政で負担しようということでその一文は削除したのでそういう理解で願います。児童部については、今は4名だが数年前には1名になるかもという予測もあり閉鎖するかみたいな話もあった。当然ではあるが、広域連合としては例え1名になったとしてもニーズがあるのであれば指定管理料を払ってでも担保するという確認はしている。

#### 【5】フェリー及び超高速船の基本方針に関すること（P22～P25）

- (常角委員長) 利用料金低廉化対策の住民以外の方への対象の見通しは。
- (事務局) 有人国境離島交付金の予算は全国で 50 億円に抑えられており、予算規模が拡大されないと厳しい。島根県及び島根県離島振興協議会としても引き続き対象拡大に向けた要望を継続していく。
- (常角委員長) 乗船窓口の ICT 化の見通しについては。
- (事務局) 例えば券売機の設置やキャッシュレス化などが挙げられる。簡単ではないがシステム化に向けて隠岐汽船(株)と検討を進めていきたい。
- (池田委員) レインボープラザは指定管理か。
- (事務局) 現在は(株)隠岐商事が指定管理者である。
- (池田委員) この計画には上がってこないのか。
- (事務局) 広域連合の事業ではあるが、レインボープラザの運営に関してはこれまでも広域計画には上げていない。
- (常角委員長) 全体を見てきたが特に修正すべき点はなく、課題解決に向けて努力していただきたいということで、たたき台についての協議は終わる。

## (2) 隠岐広域連合広域計画の実施内容及び数値目標について【別紙 1】

### 【医療(隠岐病院)】

- (高梨副委員長) 現在、訪問看護師はいるか。
- (事務局) 看護師はいるが、訪問看護自体はやっていない。
- (高梨副委員長) 共生学園と隠岐の島町がやっているということで、隠岐病院としてもゆくゆくは訪問看護体制を整備していくのか。
- (事務局) 職員数が足りないということで現在は休止しているが、体制整備に向けて検討を進めていきたい。
- (高梨副委員長) ドクターヘリの年間搬送件数は。
- (事務局) ドクターヘリ以外の他の搬送手段も含めて年間約 80~100 件で、うち隠岐病院のヘリポートを利用するのが 6~7 割程度。その他は隠岐空港等を利用。
- (上野委員) まめネットとはどういうシステムか。
- (事務局) 患者さんの診療情報を地域の医療機関や訪問看護・介護事業所等で共有する仕組み。連携カルテを利用することで各医療機関は患者さんの受診歴や病歴など最新の状況をスピーディーに把握できるようになる。患者さんの同意を得て診療情報を共有し、診療予約、画像診断などの様々な機能を活用して、一人の患者さんを複数の医療機関が受け持つことで、いつでもどこでもより安心して安全な医療サービスに繋がる。
- (上野委員) 今まででは情報共有されていなかったということか。
- (事務局) 情報共有されていなかったのではなく、例えば同じ検査を隠岐でも本土でもやっていたということはある。
- (高梨副委員長) 家族の転院時に紹介状の作成等、地域連携室には優しくすごく素早い対応をしていただいた。隠岐病院も頑張っているなど思った。
- (池田委員) 加藤先生は地域連携部長も認知症疾患医療センターもお産もやっていて大変だなと思う。あと、地域ケア会議への参加が月 1 回程度となって

いるが、各地区月1回程度。

(池田委員) 介護保険の訪問看護と医療保険の訪問看護を別にしてあるということか。

(事務局) 現在隠岐病院が実施しているのは訪問リハということで、現状では別にしてあるが、今後は一緒に検討していく必要がある。

#### 【医療(隠岐島前病院)】

(常角委員長) おしどりネットとは何か。

(事務局) まめネットの鳥取県バージョンで、鳥取県医療連携ネットワークシステム。島前病院は専門医が少ないので、こういったシステムを利用することは多い。

(池田委員) サービス調整会議は月2回のものと月1回のものがあるが。

(平木委員) 月1回の方は地域ケア会議のことだと思う。

(事務局) 確認して修正する。

(池田委員) 透析患者は本土へ行くのか。

(事務局) 現在海士町の方1名が隠岐病院で実施している。そのほかの方は本土。

#### 【介護保険】

(常角委員長) 隠岐圏域地域包括ケアシステム推進委員会の委員構成は。

(事務局) 行政関係者として隠岐4町村の福祉担当課長、隠岐保健所総務保健部長、川崎副連合長、医療関係者として隠岐病院地域連携室長補佐、隠岐島前病院事務部長、社会福祉関係者として隠岐の島町社会福祉協議会事務局長、海士町社会福祉協議会事務局長、隠岐地区老人福祉施設研究協議会会長、学識経験者として安来市の島根総合福祉専門学校理事長の計12名で構成。

(池田委員) 『(1)介護サービスの提供 イ 利用者本位と選択の自由を尊重した介護サービスの推進』について、職員の不足も含めて事業所のサービス量が減ってきていて選択の自由がなくなっている。島前はどうか。

(平木委員) サービス量は減っていない。

(池田委員) 基盤整備を法人任せにしないで、町と連携しながら進めていく必要があるのではないか。

(事務局) 総合事業にしても事業所がやっているサービスがあるが、本来はもっと住民主体であるとかそういうサービスを増やしていかなければならないが、住民主体とまでは進んでいないのが現状。事業所のほうも職員が減ってきてサービスが続けられない。町で今何が必要か話し合う場も必要。隠岐の島町がそういった会議を来月開催すると聞いている。

#### 【消防】

(池田委員) 『一人暮らしの高齢者世帯防火診断』とは何をするのか。

(事務局) コンロ周り、仏壇周り等の火の元の立入検査。

(池田委員) 一人暮らしの高齢者世帯は、広域連合管内には何世帯ぐらいあるのか。

(事務局) 全体数を把握できていないが、毎年火災予防週間に合わせて地区を限定して行っており、隠岐の島町は数が多くなかなかタイムリーには回れない。



(池田委員) デイサービスに来てもらって研修会を実施してはどうか。

(事務局) いい活動だと思う。地区の防火座談会等にも行ったりしているのでぜひ相談いただきたい。

(村田委員) フィードバック研修とは何か。

(事務局) いろいろな研修に参加した職員が各職場内で研修報告を行うこと。

#### 【障がい者福祉】

(常角委員長) 指定管理の次の更新時期はいつか。

(事務局) 現行の指定管理期間は令和3年度まで。

#### 【フェリー・超高速船運航】

(村田委員) 超高速船の運航期間について、せめて年末年始ぐらいまでやってもらえたら大変有難い。日本海の冬海が相手に命を預かる側としてはなかなか思うようにはいかないと思うが。

(事務局) この件に関しては数年前から隠岐汽船(株)と協議させてもらっている。レインボージェットは松江市の福島造船鉄工所にドックに入るが、レインボージェットの船体・エンジンは特殊で整備期間短縮には更なる高い技術が必要であること、ドック場が屋外にあり天候によって作業時間が左右されやすいなどの理由によりなかなかうまくいかない。

(村田委員) 専門家がメンテナンスに来るのか。

(事務局) これまでは川崎重工(株)から1～2名を派遣してもらっていたが、去年は隠岐汽船が設立した隠岐汽船テクノの社員がメンテナンスを行った。

(常角委員長) フェリーも1月1日から2隻体制となるが、せめて正月三が日くらいは3隻体制で運航できないものか。

(事務局) 隠岐汽船(株)と引き続き協議していきたい。

(常角委員長) フェリーしらしまの退役はいつ頃か。

(事務局) 令和2年度中には隠岐汽船(株)が更新計画を策定する予定だと聞いている。

(村田委員) 建造から何年くらいか。

(事務局) 平成7年3月就航なので建造から約25年。各造船所も忙しいようで発注から完成まで2～3年はかかる。どの船会社も一般的には旅客船は30年ぐらいは運航している。

(常角委員長) 以上で、第2回委員会を終了する。

(事務局) 幹事会での意見、今後実施するパブリックコメントの意見等を反映し修正したものを第3回委員会に提出したい。